

大学女子ハンドボール競技におけるバックコートプレイヤーの ポストプレイヤーへのアシストパスプレーに関する研究

林 るうな (201111966, ハンドボール方法論)

指導教員：藤本 元, 會田 宏, 山田 永子

キーワード：ポストプレー, アシストパス, チーム間の比較

【目的】

ハンドボール競技において、シュート成功率が最も高いシュートは、ゴールに近いエリアからのポストシュートであり、ポストシュートを生み出すポストプレーが攻撃において大きな意味を持っている。これまでポストプレーに着目した研究は行われてきたが、バックコートプレイヤーのアシストパスプレーに着目した研究は見当たらない。

そこで本研究では、関東学生ハンドボール女子 1 部リーグに所属する上位 4 チームを対象に、バックコートプレイヤーのポストプレイヤーへのアシストパスプレーを調査し、各チームのポストプレーの特徴や傾向を明らかにし、今後の指導に役立てる知見を得ることを目的とする。

【方法】

本研究では、平成 25 年度および平成 26 年度関東学生ハンドボール女子春季リーグ戦における上位 4 チームが対戦した 23 試合を研究対象とした。対象チームの 2 つのリーグ戦の平均順位は、順位の高い順に東京女子体育大学(東女)、筑波大学(筑波)、東海大学(東海)、日本体育大学(日体)である。対象試合からバックコートプレイヤーのポストプレイヤーへのアシストパスプレーの場面を抽出し、以下の 10 項目について分析した。

①パス結果②プレー結果③プレーの成否④ディフェンス状況⑤バックコートプレイヤーのポジション⑥バックコートプレイヤーの長さ⑦バックコートプレイヤーのステップパターン⑧バックコートプレイヤーのスウィング動作⑨パスの種類⑩バックコートプレイヤーとポストプレイヤーとの関係

分析項目をチーム間で比較するために一元配置の分散分析およびカイ 2 乗検定と残差分析を用いた。

【結果】

1. プレーの成否の比較

チームとプレーの成否との間に有意な関係が認められ、筑波は有効なアシストパスプレーが多く、日体は有効なアシストパスプレーが少ないことがわかった。有効は平均順位が高いチームほど高い

値を示した。

2. バックコートプレイヤーのステップパターンの比較

チームとバックコートプレイヤーのステップパターンとの間に有意な関係が認められ、東女はゼロでパスを出すことが少ないこと、筑波はジャンプパスが少なく、スタンディングでのパスが多いことがわかった。

3. パスの種類の比較

チームとパスの種類との間に有意な関係が認められ、筑波はバウンドパスが多く、東海と日体はバウンドパスが少ないことがわかった。

4. バックコートプレイヤーとポストプレイヤーとの関係の比較

チームとバックコートプレイヤーとポストプレイヤーとの関係との間に有意な関係が認められ、東女は位置取りした所からのパスが少ないこと、筑波はポストプレイヤーが動くプレーが多いこと、東海は両方が逆方向に動くプレーが多いこと、日体は位置取りした所からのパスが多く、ポストプレイヤーが動くプレーが少ないことがわかった。

【考察】

平均順位が高いチームほどシュート達成や有効なアシストパスプレーが多いことから、強いチーム作りをするためには、アシストパスプレーを強化することが 1 つの方法であると考えられる。

平均順位が上位の東女はバックコートプレイヤーがシュートを狙いながらステップを使って移動してアシストパスをするプレー、筑波はバックコートプレイヤーがポストプレイヤーにバウンドパスをするなど習熟度の高いコンビネーションを利用したプレーを行なっていることが考えられる。平均順位が下位の東海はアシストパス数自体が少ないことから、ポスト以外のポジションでのプレーが多いと考えられ、日体はポストプレイヤーの力強さを利用するためにアシストパス数が多いが、有効なプレーに結びつかないことが多いことが考えられる。